

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32644

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13195

研究課題名（和文）大学教育における「対話」 持続可能でレジリエントな社会を創る市民育成の視点から

研究課題名（英文）"Dialogues" in University Education to Develop Citizenship for a Sustainable and Resilient Future

研究代表者

二ノ宮リム さち (NINOMIYA-LIM, Sachi)

東海大学・スチューデントアチーブメントセンター・准教授

研究者番号：90646499

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は「『対話』を通じたアクティブ・ラーニングが、大学における『持続可能でレジリエントな社会を主体的に創造する市民』の育成につながる」という仮説に、実践を通じどのような可能性と課題が示されるかを問う試みとして開始した。その後、対象を学校教育や社会教育にも広げ、既存理念や先行実践を検討し、大学生を対象に「対話」を体験を通じて学ぶ教育プログラムを構築した。また、教育手段としての「対話」から、持続可能な社会を市民が創造する過程に求められる実践・文化としての「対話」に焦点を移しつつ、「対話の場」を担う実践者への聞き取りをもとに「対話の力」「対話を創造する力」を理論的に示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は「持続可能でレジリエントな社会」の創造に不可欠な「対話」の教育に関する可能性と課題を一定程度明らかにし、社会を主体的に創造する「市民」を育む具体的な方策を示した。「持続可能性」「レジリエンス」は時に対立する解釈を許す曖昧な概念であり、対立を乗り越え未来像を具体化する過程は重要な学習の機会となり得るが、教育現場では異なる立場の衝突を避けるため対立が放置される、隠されるという事態が起きる。また、大学を含む教育の場に主体的な「市民」を育成する役割が期待され「アクティブ・ラーニング」が推進されるが、その具体像は定まっていない。本研究はこれらの課題を乗り越える現実的な可能性を示すものである。

研究成果の概要（英文）：This study explored the possibilities of "dialogues" to facilitate active learning to develop citizenship for a sustainable and resilient future. While its original focus was on university education, it enlarged its scope to study the cases of school and community education. Based on the findings, a citizenship education program for university students to incorporate "dialogues" for sustainability has been developed. In addition, the study developed a list of competencies to "participate in dialogues" and "create spaces for dialogues" based on interviews to practitioners who create such spaces, while shifting its focus from dialogues as "educational tools" to those as "practices and culture," which support the process for citizens to create a sustainable and resilient society.

研究分野：環境教育学、大学教育学、社会教育学、ESD論

キーワード：対話 大学教育 社会教育 環境教育 ESD 持続可能性 対話の場づくり 対話の教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 大学教育への期待：アクティブ・ラーニングを通じた主体的市民の育成

近年、大学教育の役割として、社会を主体的に創造する「市民」を育むことへの期待が高まり、そのためには能動的・主体的学修を促す教育が不可欠だと考えられるようになってきている。学校教育全体においてその重要性への認識が広がる「アクティブ・ラーニング」が、大学教育の中でも求められ、議論や実践が急速に広がった。そうしたなか、大学教育におけるアクティブ・ラーニングを真に意義ある学びにつなげるには、外的活動のみならず内的活動における能動性を実現することの重要性が指摘されてきた。

(2) 道標としての「持続可能性」と「レジリエンス」

大学が社会を創造する「市民」を育成するなかでは、学生自らが、目指す社会のビジョンを主体的に検討していくことが重要となるが、その道標となる概念が「持続可能性」と「レジリエンス」だ。「持続可能性」は、1980年代から現代社会の目指すべき方向性を示す鍵として共有されてきた概念だが、「持続可能な開発目標（SDGs）」によって広く注目されることになった。また「レジリエンス」は、頻発する自然災害や、急激に進む社会変化のなかで、社会が攪乱から回復し状況に適應しながら持続していくために必要な力として、近年注目を集める概念であり、社会的排除の問題をより意識的に視野に入れた検討の契機を与えるものと考えられる。

(3) 「持続可能性とレジリエンス」を軸にした対話：アクティブ・ラーニングとしての可能性

「持続可能性」と「レジリエンス」は、多様な価値観にもとづく様々な、時に対立する解釈を許す曖昧な概念でもある。現実の課題を取り巻く対立を乗り越え、「持続可能でレジリエントな社会」のビジョンを具体化する過程は、重要な学習の機会となり得るが、「中立」が重視される教育現場では、その過程に生ずる異なる価値観や立場の衝突を避けるため、本来向き合ねばならない対立が放置される、または隠されるという事態も起きる。主体的市民を育むためには、多様な見方や意見の間の対話・相互作用を通じた学習が不可欠であり、異なる価値観の間の対話を軸に、学生が主体的市民としての力を得る学びは、大学教育における「深い学習」を伴うアクティブ・ラーニングのひとつの具体像となり得る。特に、政治、宗教、経済的立場等の違いによる分断が国内外で深刻化する昨今、異なる価値観を持つ他者と対話する力の育成は緊急に取り組まれるべき課題だと考えられた。

2. 研究の目的

以上の背景を踏まえ、本研究は、大学における「持続可能性・レジリエンスの概念を軸とした『対話』によるアクティブ・ラーニング」の可能性と課題について、「持続可能でレジリエントな社会」を主体的に担う市民を育成する観点から実証的に検討し、その実践モデルを提示することを目的とした。それにより、大学教育を通じた市民の育成を「持続可能でレジリエントな社会」という現代的課題を乗り越えるビジョンにつなげ、大学のアクティブ・ラーニングを「深い学習」として実現する具体的方策を示すとともに、社会の創造に不可欠な「対話」の力とその教育における可能性と課題を明らかにすることを目指した。研究の過程で、対象を学校教育や社会教育にも広げたとともに、教育手段としての「対話」から、持続可能な社会を市民が創造する過程に求められる実践・文化としての「対話」に焦点を移し、さまざまな学びの場で意識されるべき「対話の力」「対話の場づくりの力・要件」を明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

上記の目的に向けた本研究を、以下のとおり実施した。

- (1) 文献レビュー・先行研究整理による研究枠組・評価指標の構築：大学教育、ESD、シチズンシップ教育、持続可能性、レジリエンス等に関する先行研究を整理し、大学における「持続可能でレジリエントな社会」を主体的に担う市民の育成」を評価する枠組・基準を構築した。
- (2) 「対話」によるアクティブ・ラーニング実践内容・方法の計画：対話・コミュニケーション等に関する他分野の先行研究や実践事例を踏まえ、「持続可能性」「レジリエンス」概念を軸とした「対話」による大学のアクティブ・ラーニングの具体的内容・方法を計画した。
- (3) 実践を通じた参与観察：(2)の計画を申請者本人や協力者が実施する大学授業や社会教育実践に取り入れ、その過程や成果について観察や検討をおこなった。
- (4) 実践者への聞き取り・分析：持続可能でレジリエントな社会づくりにつながる多様な対話の場を担う実践者に対し、「対話」や「対話の場づくり」に関する視点を聞き取った。文章化した内容をコーディング・分析し、「対話の力」「対話の場づくりの力・要件」について検討した。

- (5) 「対話の学び」の理論化と実践モデルの構築：上記をもとに「対話の力」「対話を創造する力・要件」を理論化するとともに、「持続可能な社会を主体的に担う市民を育成するための『対話』の学び」の実践モデルを構築した。

4. 研究成果

本研究の成果は、主に下記二点である。

- (1) 「持続可能でレジリエントな社会を主体的に担う市民」に不可欠な「対話」を体験を通じて学ぶプログラムを、大学生を対象に実践し、教育モデルとして構築した。特に Nonviolent Communication (非暴力・共感的コミュニケーション) の理念や実践を参考に、NVC の専門家と連携しながら、実践を繰り返し、検証した。この成果は、これまで研究者・教育者や一般市民への発表・講演等で一部を伝えているが、今後、教材やガイドブックとして発行し、普及活用を目指す。
- (2) 「対話の学び」を検討するなかで、「対話」を教育手段としてとらえる視点を広げ、持続可能な社会を市民が創造する過程の実践とそれを支える文化としての「対話」を育む学習・教育の重要性を明らかにした。そのうえで、育まれるべき「対話の力」を、先行研究や、持続可能でレジリエントな社会づくりにつながる多様な対話の場を担う実践者へのインタビューからリストにまとめ提示した。また、個々の学習者が「対話の力」を育むことを目指す際、その過度な強調が個人に対するディスエンパワメントになる可能性に着目し、個人が「対話の力」を発揮できる「対話の場」を創造する力や要件の重要性を提示するとともに、それらを理論的に示した。『対話』の力』『対話』を創造する力』は、論文や書籍で発表しつつ(表1、表2)、見直しを続けており、インタビュー分析の結果と合わせた調査に関する研究論文は現在投稿中である。

表1：「対話」に参画する力（暫定リスト）※

- 対等な姿勢：物怖じせず、卑屈にも尊大にもならない
- 自分の理解と表現：自身の感情を認め、思いを表現する
- 相手の理解と共感：相手の感情を認め、思いを尊重する
- 関係性の構築：対話の相手として人間同士の関係性をつくる
- 多様性と公正性：排除される立場からの声を対話にのせる
- 主体性と責任：対立を避けず、主体的に対話に加わる
- 共創の意志：共有できる部分を見つけ、新たな価値を創る
- 持続可能性の価値の共有：公正な社会・環境・経済を志向する

表2：「対話」を創造する力（暫定リスト）※

- 対立構造を超える「共感」を生み出す～正義の主張よりも、深い次元で共感される価値を前面に出すことで「共同体」としての土壌を形成する
 - ・物事の本質をとらえる力・人々の想いを感じる力・言葉を選ぶ力
- 多様な人々と関係性を構築する～自身の立場を対立構造に位置づけず「人間同士」のコミュニケーションを通じて関係性を構築
 - ・「人間」への関心・相手を引き出す力・自分を開く力・立場を超える力
- 外部の支援者・専門家を活用する～必要となる情報や知見・活動への推進力(お墨付き・中立性)を与える支援者／専門家・情報など
 - ・幅広い人脈・的確な情報収集力
- 多様性や公正性を重視する～「協創する共同体」に参画できていない人はいないか？参画していない人は誰か？共同体の中に自由で率直な発言を阻む力関係があるか？
 - ・力関係や組織構造を俯瞰的に解する力

※二ノ宮リムさち「持続可能な地域を創るのは誰か：社会課題を乗り越えるための対話と教育」、原田保・西田小百合・古賀広志・鈴木紳介・二ノ宮リムさち・黒崎岳大・石原圭子・松村茂「社会デザインのための新機軸創造—地域デザイン学会による接近方法の諸相」『地域デザイン』No.20, 2022年, 219-255. の図表6・7を転載。リストはその後改訂を継続。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 二ノ宮リム さち , 齋藤 真哉 , 的野 信一 , 荻野 亮吾 , 近藤 牧子 , 田中 治彦 , 岩本 泰 , 湯本 浩之	4. 巻 7
2. 論文標題 持続可能な地域の形成条件に関する事例研究(3) : 東京都板橋区におけるESD・SDGsに関わる市民の学習活動を事例にして	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 251-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34551/00023469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原田保 , 西田小百合 , 古賀広志 , 鈴木紳介 , 二ノ宮リムさち , 黒崎岳大 , 石原圭子 , 松村 茂	4. 巻 20
2. 論文標題 社会デザインのための新機軸創造 地域デザイン学会による接近方法の諸相	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域デザイン	6. 最初と最後の頁 219-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二ノ宮リム さち	4. 巻 7
2. 論文標題 シティズンシップ教育とパブリック・アチーブメント その意義と課題を考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東海大学スチューデントアチーブメントセンター紀要	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二ノ宮リムさち・池谷美衣子・田島祥	4. 巻 第6集
2. 論文標題 全学必修シティズンシップ教育科目の遠隔実施における課題と可能性:教員アンケートをもとに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海大学スチューデントアチーブメントセンター紀要	6. 最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horimoto Mayuko, Ninomiya-Lim Sachi	4. 巻 14
2. 論文標題 Nurturing Citizenship in Higher Education: Public Achievement-style Education at Tokai University	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7571/esjkyoiku.14.29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小玉重夫・菊池かおり・ハリーボイト・高橋史子・堀本麻由子・二ノ宮リムさち	4. 巻 86
2. 論文標題 グローバル時代の教育と政治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11555/kyoiku.86.1_62	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sachi Ninomiyalim, Jinyoung Kang, Changhwan Kim, Sabrina Ho Abdullah	4. 巻 28(4)
2. 論文標題 Environmental Education in Higher Education Institutes in Asia - Overview of Experiences in South Korea, Malaysia, and Japan -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Environmental Education	6. 最初と最後の頁 36-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5647/jsoee.28.4_36	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 二ノ宮リム さち・古里 貴士・高梨 宏子・降旗 信一・松本 和信	4. 巻 3
2. 論文標題 大学生による学習支援を通じた中学生の非認知スキル育成・ESDの可能性：秦野市立大根中学校生徒を対象とした東海大学ESD塾の実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海大学現代教養センター紀要	6. 最初と最後の頁 81-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二ノ宮リムさち	4. 巻 744
2. 論文標題 社会教育が提起するESDの実体とは 普遍的価値原理としての持続可能性と対話の学び	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 54-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Horimoto Mayuko, Ninomiya-Lim Sachi	4. 巻 77
2. 論文標題 Public Achievement-style Education at Tokai University:- Background and Practice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育学会大会研究発表要項	6. 最初と最後の頁 373-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11555/taikaip.77.0_373	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計40件(うち招待講演 13件/うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 What is CN Education and How Do We Promote It?
3. 学会等名 Japan and US Bilateral Climate Coalition Workshop, 2022 Higher Education Climate Leadership Summit (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 "誰も取り残さない"社会へ向けたエンパワメントとしての対話~ 参画・創造・文化形成と学習・教育
3. 学会等名 日本社会教育学会 プロジェクト研究「SDGsと社会教育・生涯学習」第6回公開研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 持続可能な社会づくりと“対話”
3. 学会等名 第13回東海大学社会環境課程オープンセミナー研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 気候変動と大学教育：シティズンシップと対話の視点から
3. 学会等名 民主教育研究所 国際教育研究委員会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井柳美紀, 土肥潤也, 二ノ宮リムさち, 藤枝聡, 堀本麻由子, 小玉重夫, 村松灯
2. 発表標題 18歳成人と大学初年次教育 ポストコロナ時代のアセンブリ
3. 学会等名 日本教育学会 第81回大会発表
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 持続可能性を取り巻く対立を乗り越える ~対話の文化を育む教育とは
3. 学会等名 一般社団法人日本環境教育学会 第33回年次大会(東京)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち, 近藤牧子
2. 発表標題 市民と市民・市民と行政のパートナーシップを育む学習コミュニティ形成～社会教育委員関係者の協働によるラウンドテーブル実践「あきしま会議」から
3. 学会等名 日本社会教育学会 第68回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 脱炭素時代の地域デザインー環境教育学の観点から
3. 学会等名 第 2 回 SDGs NEXT フォーラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 二ノ宮リム さち
2. 発表標題 大学の気候変動教育：シティズンシップと対話の視点から
3. 学会等名 日本環境教育学会第32回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二ノ宮リム さち
2. 発表標題 持続可能な社会を拓く「対話」とその学習（2）
3. 学会等名 日本社会教育学会第68回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 EE and Citizenship under Pandemic - International Connection for Collaborative Study
3. 学会等名 North American Association for Environmental Education 50th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 University-wide Online Citizenship Education under Pandemic - Case from Japan
3. 学会等名 North American Association for Environmental Education 50th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 Public Achievement and Citizenship Education in Japanese Universities
3. 学会等名 2021 AERA Research Conference, Civic Studies: The University as Civic Catalyst (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 EMPOWERING STUDENTS FOR SUSTAINABILITY WITH “PUBLIC ACHIEVEMENT” UNDER PANDEMIC - ONLINE CITIZENSHIP EDUCATION OF TOKAI UNIVERSITY, JAPAN
3. 学会等名 11th World Environment Education Congress - Building Bridges in Times of Climate Urgency (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shigeo Kodama, Mayuko Horimoto, Sachi Ninomiya-Lim, So Fujieda
2. 発表標題 Public Achievement and Citizenship Education in Japanese Universities
3. 学会等名 2021 AERA Research Conference: Civic Studies - The University as Civic Catalyst (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二ノ宮リム さち・池谷 美衣子
2. 発表標題 全学的正課教育と課外自主活動を通じた学生の社会的実践力育成
3. 学会等名 日本環境学会第47回研究発表会 公開ミニシンポジウム「大学における社会的実践力の育成～地域連携の活用を含めた事例紹介～」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二ノ宮リム さち
2. 発表標題 SDGsの理念にもとづく地域づくりの鍵
3. 学会等名 サステナブル・ブランド国際会議2022横浜 セッション「社会課題への対応による地域価値発現!!」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リム さち
2. 発表標題 持続可能性は普遍的価値となりえるか 6つのキーワードから
3. 学会等名 一般社団法人地域デザイン学会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リム さち
2. 発表標題 気候変動教育と大学
3. 学会等名 日本環境教育学会 3月集会「気候変動教育」研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リム さち
2. 発表標題 CNに向けた社会変革を支える東海大学のシティズンシップ育成：全学教養教育＋学生プロジェクトを通じて
3. 学会等名 カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション2021年度第2回人材育成WG全体会合（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 Women in `Dialogues` for a Sustainable Future
3. 学会等名 Women and Girls Empowerment for Climate Emergency: The Next, Parallel Event, NGO CSW66 Forum（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 持続可能な地域づくりと対話の教育
3. 学会等名 日本環境教育学会第31回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 持続可能な社会を拓く「対話」とその学習
3. 学会等名 日本社会教育学会第67回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 Empowerment for Sustainability Dialogues - Incorporating Nonviolent Communication (NVC) in EE
3. 学会等名 North American Association for Environmental Education 49th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 コロナ時代の公民館×SDGs「誰も取り残さない」社会教育とは
3. 学会等名 第57回東京都公民館研究大会第一課題別集会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim, Kimiharu To, Shinichi Furihata, Masahiro Saito, Sun-Kyung Lee, Yi-Hsuan (Tim) Hsu
2. 発表標題 Promoting International Research Collaboration for Environmental Education in Asia - Challenges and Possibilities
3. 学会等名 the 10th World Environmental Education Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 対話の力を育む社会教育 「非暴力コミュニケーション(NVC)」に着目して
3. 学会等名 日本社会教育学会 第66回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 持続可能な社会づくりと「対話」の力
3. 学会等名 日本社会教育学会 第66回研究大会 ラウンドテーブル SDGsと社会教育(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 ESD in Japan under the Wave of SDGs
3. 学会等名 International Workshop on Environmental Education (国際環境教育課題ワークショップ) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 Education for 'Sustainability' - An Empty Signifier or the Universal Principle for the New Era?
3. 学会等名 2019 CSEE Annual Symposium (2019年中華人民共和国環境教育学術的実践の交流国際学会) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim, Kimiharu To, Ryo Sakurai, Shinichi Furihata, Kantaro Tabiraki
2. 発表標題 Promoting International Collaboration for Diversifying Education Research - Based on the Experience of the Japanese Society for Environmental Education and its International Partners
3. 学会等名 World Education Research Association 2019 Focal Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 持続可能な社会を創る「対話」の力とは
3. 学会等名 日本環境教育学会 第30回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 Who Creates a Sustainable Society? (持続可能な社会をつくるのは誰か? - ESDの視点から)
3. 学会等名 Tokai University x Denmark Joint Symposium 2018: Energy Transitions (デンマーク x 東海大学 Joint Symposium エネルギーと環境 ~ 持続可能な社会の実現に向けて) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sachi Ninomiya-Lim
2. 発表標題 Community-University Partnership for Sustainability and Resilience: A Case from Japan
3. 学会等名 North American Association for Environmental Education 47th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二ノ宮リムさち
2. 発表標題 社会 生態システムと学習者の持続可能性とレジリアンスを育てる大学のESD
3. 学会等名 日本環境教育学会第29回年次大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 阿部 治・朝岡 幸彦・ 堅達 京子・牧野 篤・山藤 旅聞・大倉 茂・飯田 貴也・秦 範子・増田 直広・荻原 彰・日置 光久・高野 孝子・酒井 佑輔・二ノ宮リム さち・高橋 正弘・岩本 泰・福井 智紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 160
3. 書名 知る・わかる・伝えるSDGsIV 教育・パートナーシップ・ポストコロナ	

1. 著者名 二ノ宮リムさち , 朝岡幸彦 , 鈴木敏正 , 石山雄貴 , 田開寛太郎 , 伊東静一 , 中沢孝之 , 林浩二	4. 発行年 2023年
2. 出版社 人言洞	5. 総ページ数 160
3. 書名 社会教育・生涯学習入門：誰ひとり置き去りにしない未来へ (社会教育・生涯学習の基本シリーズ)	

1. 著者名 鈴木敏正 , 朝岡幸彦 , 岩松真紀 , 若原幸範 , 古里貴士 , 向井 健 , 秦 範子 , 大高研道 , 二ノ宮リムさち	4. 発行年 2023年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 168
3. 書名 社会教育・生涯学習論 改訂版：自分と世界を変える学び (「ESDでひらく未来」シリーズ)	

1. 著者名 阿部 治, ニノ宮リム さち, 長澤 恵美子, 古屋 将太, 島村 守彦, 池谷 美衣子, 川岸 卓哉, 福井 智紀, 南口 誠, 近藤 牧子, 八木 亜紀子, 山崎 嵩拓, 別所 あかね, 横張 真, 東福 光晴	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 160
3. 書名 知る・わかる・伝えるSDGs エネルギー・しごと・産業と技術・平等・まちづくり	

1. 著者名 ハリー・C・ボイト, 小玉, 重夫, 堀本, 麻由子, 平木, 隆之, 古田, 雄一, 藤枝, 聡, 植田 俊, 中村晃司, ニノ宮リムさち, 矢部久美子, 大江一平	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東海大学出版部	5. 総ページ数 280
3. 書名 民主主義を創り出す：パブリック・アチーブメントの教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>持続可能でレジリエントな世界と教育・学習について考える～ニノ宮リムさち Website https://sachinl.wixsite.com/sachi-ninomiya-lim</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	今井 麻希子 (Imai Makiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
マレーシア	Universiti Tunku Abdul Rahman	Universiti Putra Malaysia		
その他の国・地域	University of Taipei			
韓国	Seoul National University	Association for Green Campus Initiative		
米国	Augsburg University			